

平成29～令和元年度 滝川市虐待報告（高齢者）

1. 虐待通報件数

	通報件数	実人数	虐待ありと判断
平成29年度	9 件	9 人	8 件
平成30年度	10 件	10 人	6 件
令和元年度	6 件	6 人	5 件

※令和元年度は12月末現在

2. 虐待通報の種別内訳（複数あり）

	身体的虐待	心理的虐待	性的虐待	経済的虐待	ネグレクト
平成29年度	8 件	2 件	0 件	1 件	0 件
平成30年度	8 件	2 件	0 件	1 件	0 件
令和元年度	5 件	0 件	0 件	1 件	0 件

※重複あり

3. 虐待通報者内訳

	本人	家族	介護関係	警察	民生委員等	医療機関
平成29年度	0 件	0 件	0 件	9 件	0 件	0 件
平成30年度	1 件	1 件	0 件	7 件	0 件	1 件
令和元年度	0 件	1 件	0 件	4 件	0 件	1 件

4. 被虐待者の性別（通報件数による内訳）

	男性	女性
平成29年度	1 人	8 人
平成30年度	1 人	9 人
令和元年度	1 人	5 人

5. 被虐待者の年齢（通報件数による内訳）

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
平成29年度	2 人	2 人	1 人	3 人	1 人	0 人
平成30年度	1 人	4 人	2 人	0 人	1 人	2 人
令和元年度	0 人	3 人	1 人	1 人	1 人	0 人

6. 虐待者の続柄（通報件数による内訳・複数あり）

	夫	妻	息子	娘	親族	施設	その他
平成29年度	5 人	1 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人
平成30年度	3 人	0 人	1 人	3 人	3 人	0 人	0 人
令和元年度	4 人	1 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人

7. 虐待者の年齢（通報件数による内訳・複数あり）

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～
平成29年度	4 人	0 人	1 人	0 人	1 人	2 人	1 人
平成30年度	4 人	2 人	1 人	3 人	0 人	0 人	0 人
令和元年度	2 人	0 人	1 人	1 人	0 人	2 人	0 人

8. 虐待と判断し分離した件数

平成29年度	3 件
平成30年度	3 件
令和元年度	2 件

9. 虐待と判断した事案（全て在宅の事案）

平成29年度	虐待の種別		事案の概要	通報先	被虐待者	虐待者
平成29年度	1	心理	警察が息子を取り扱った際に、母親に連絡したところ、約20年前から息子が飲酒すると母親に対し暴言を吐くと相談があった。息子は精神科に入院歴があるが、飲酒がなければ日常生活は問題なく、保健所にも相談しているとのこと、経過観察とした。	警察	母	息子
	2	身体	認知症のある夫が、妻に対して、特段の理由なく往復ビンタや押し倒すといった暴行を加え、妻が転倒して腕から流血する怪我を負い、警察に通報。介護サービスの利用もあったため、経過観察としていたが、夫の認知症が進み、入院。その後に亡くなられた。	警察	妻	夫
	3	身体	夫が妻に対して、リモコンの向きが悪いなどと怒り、その後飲酒をして更に機嫌が悪くなって、箸・皿を投げる、手拳で2～3回殴る暴行をしたため、妻が警察に相談。夫は医療保護入院した。	警察	妻	夫
	4	身体	夫が妻の浮気を疑ったことで、妻が激昂。妻が夫の顔を叩く、引っ掻くなどの暴行を加え、夫が警察に相談した。夫は気性の激しい妻をなだめるために警察を呼んだと主張しており、夫の兄弟も同居しているため、危険性は低いと判断し、経過観察とした。	警察	夫	妻
	5	身体	末期の膵臓がんの夫が、モルヒネを使用中で運転を禁じられているが運転しようとしたため、妻が注意すると、木製のティッシュ箱で殴り掛かってきたため、警察に相談した。夫は病院と相談して精神科受診。安定剤服用で落ち着き、在宅生活を継続したが、がんのため亡くなられた。	警察	妻	夫
	6	身体・心理・経済	てんかんで引きこもりの息子が、自身の障害年金には手を付けず、以前から祖母や母に対して金の無心を繰り返し、断られると暴力を振るっていた。祖母の施設入所に伴い、母から「これ以上金銭援助をするのは無理だ」と伝えると、激昂し足蹴にするなどの暴力を加えたため、母が以前から相談していた、そらちサポートセンターと、警察に相談した。母は家を出て別居することにし、息子の対応は空知サポートセンターにお願いした。	警察 福祉機関	母	息子
	7	身体	夫婦は日常的に口論しており、過去に妻は痣ができるほど夫から暴力を受けたことがあった。最近では暴力はなかったが、顔を合わせると口論になるため、夫が怒り出すと妻は自室に閉じこもっていたが、夫が怒鳴ってドアを何度も叩くなどの行動があり、心配した夫婦の息子の元嫁が警察に相談した。話を聞くと、妻は何かあれば自分で通報できると言っており、地域の体操教室にも参加していたため、見守りを依頼し、経過観察とした。	警察 福祉機関	妻	夫
	8	身体	精神疾患の既往歴がある引きこもりの息子が、母名義のクレジットカードを使っていたが、止めさせようとした母と口論になり、電話機本体から受話器を引きちぎる、母の肩を小突くなどの暴行を働いた。過去にも両親に対し小突くなどの暴行があったことから、父が警察に相談した。両親は母の実家に避難し、息子は医療保護入院となった。	警察	母	息子
	9	身体	重度の認知症の妻を介護する夫が、妻が物忘れて話が噛み合わないことに立腹。妻に対して思わず茶わんを投げてしまい、頭部を数針縫う怪我を負った。夫が自ら消防に救急要請し、消防から警察に情報提供があった。包括で訪問し、妻の精神科受診を促したが、本人も夫も初めは拒否的で、何度か訪問するうちに夫も同意し、医療保護入院となった。	警察	妻	夫

平成30年度	虐待の種別		事案の概要	通報先	被虐待者	虐待者
平成30年度	1	心理	酩酊状態の娘が母親宅を訪れた際、母から「具合が悪いのはお前のせいだ」と言われたことに腹を立て、母に対して煙草の空き箱を投げつけたため、母が警察に通報。これまでも両者の揉め事は警察で数度取り扱いがあり、包括から母の担当ケアマネに状況を報告し、経過観察とした。	警察	母	娘
	2	身体	精神疾患を持つ妻に対し、夫が入浴をするよう指示したところ口論に発展し、夫が妻の背中を殴打したため、妻が警察に通報。外傷はなかったが、数十年前から夫から日常的に暴力を受けているという訴えがあり、夫も介護疲れが見えたため、包括で訪問し、サービスを勧めたり、定期的の様子を見ている。	警察	妻	夫
	3	身体	躁うつ病の夫が、外出先で妻と口論になり、平手で頭を2～3回叩き「殺されたいか」などの暴言を吐き、意味不明の言動があったため、危険を感じた妻が友人宅に駆け込んで警察に通報した。夫は医療保護入院となった。	警察	妻	夫
	4	身体	介護保険料を支払いに市役所に来た本人が、職員に「息子から殴られた」と言い、腕にできた痣を見せた。包括職員が訪問し、話を聞くと、その痣は古い痣であり、本人曰くドアノブにぶつけたものだった。生活状況を尋ねると、息子との関係性は悪くなく、その後、息子と一緒に市外へ転居している。	本人	母	息子
	5	身体	些細なことで妻と口論になった夫が、妻に対し灰皿などを投げつけ、妻の足にぶつかった。夫を止めようとしたが収まらず、掴み合いになったため、妻が警察に通報。妻は息子宅に避難し、夫を精神科に受診させようとしたが、家族も連れていくことが難しいため、また同じようなことがあれば相談してもらい、医療保護入院を検討することにして、経過観察とした。	警察	妻	夫
	6	身体	入院中の本人の顔や膝、肩や臀部に痣があり、弟に叩かれたと言っていると入院先の相談員より通報。本人は母親と妹と同居のため、退院後に訪問して状況確認するも、虐待と断定し得る状況は確認できず。弟と連絡を取るも、表向きは本人のことを心配している様子しか窺えず。現状は本人が地域の体操教室などにも通っており、経過観察とした。	医療機関	姉	弟
	7	身体・心理	精神疾患を患う娘が、パチンコに負けたことで立腹し、酩酊状態で、同居の母に対し「早く死ね」などと暴言を吐き、コップやリモコンを投げ付けたため、危険を感じた母は孫宅に避難をしたが、娘が押しかけ、妊娠中の孫を押し倒そうとしたりするため、孫が警察に通報。母は札幌の姉のいる施設に一時避難した。その後、娘も落ち着いて就労し、現在は母と同居している。	警察	母	娘
	8	身体	精神疾患を患う娘が、精神状態が不安定になり、母に対し些細なことから手を挙げ、左耳を平手で殴打したり、肩を小突くなどが続いたため、母が札幌在住の妹と姪に相談をし、札幌の妹宅に避難をする前に警察に相談した。その後、母のケアマネから娘に受診を促してもらい、精神科に入院となった。現在は落ち着いて退院し、母との同居を再開している。	警察	母	娘
	9	経済	サ高住に入居中の本人の金銭管理を、近くに住む実弟がしているが、使途不明金があり、経済的虐待ではないかと疑った遠方に住む娘婿から相談があった。ケアマネに確認したが、支払いや生活には支障がなく、そのような事実は確認できなかった。	家族	姉	弟
	10	身体	夫と娘が揉めていると、妻から警察に通報がある。両者は再婚したばかりの義理の親子関係であり、妻の死後の遺骨処理について、精神疾患を患う義娘と義父の方針が食い違い、つかみ合いの喧嘩になったとのこと。その後、妻の担当ケアマネに状況を報告した。	警察	義父	義娘

平成31年度	虐待の種別		事案の概要	通報先	被虐待者	虐待者
平成31年度	1	経済	長期入院中の本人が、実娘が小遣いを渡さないなどと訴えており、経済的虐待を受けているのではないか、面会にいった際に痩せたような様子が見られ、食事も摂っていないのではないかと本人の孫から相談がある。在宅の時の担当ケアマネや病院に確認したところ、そのような事実はなく、虐待は認められなかった。	家族	母	娘
	2	身体	夫婦で定期預金の解約などについて話しをしていたところ口論に発展し、ソファで横になっていた妻の脇腹を、夫が足で蹴った。血尿が出たため妻が病院を受診し、医師から警察に通報。妻は全治2週間の腎外傷と診断され、入院治療を行った。妻は認知症もあり精神科受診し、服薬を開始した。娘とも相談し、分離はせず、退院後は自宅に戻り、介護認定を受けるなどして、経過観察している。	病院	妻	夫
	3	身体	些細なことから夫婦喧嘩になり、夫が妻を足蹴りしたり、「刺すぞ」と暴言があり、妻が警察に通報。ご夫婦は夫の単身赴任のため20年ほど別居しており、5年程前から一緒に暮らし始めた。平成30年1月頃に夫が脳梗塞を患い、比較的軽度であるが、身体に不自由さを生じた苛立ちから、口論になることが増えたとのこと。訪問し状況確認したが、緊迫した状況ではなく、妻も何かあれば逃げるができるかと判断し、経過観察とした。	警察	妻	夫
	4	身体	些細なことから夫婦で口論に発展し、夫が杖で妻の頭や腰を叩いたため、妻から警察に通報。以前にも口論となった際に夫から暴力を受けたことがあった。夫は認知症が疑われ、認知症初期集中支援チームが介入し、受診やサービス利用を勧めている。	警察	妻	夫
	5	身体	食事のことから夫婦喧嘩となり、夫が妻を突き飛ばし、「殺すぞ」などの暴言を吐いた。翌日の朝も夫が怒鳴るため、妻が旭川の長男に相談し、「（夫が）包丁を持ち出さないように隠した」と発言したことから、長男が「父が包丁を持って暴れているようだ」と警察に通報した。警察が訪問すると通報のような状態はなかったが、駆けつけた長男が妻を連れて帰り、今後は同居しないことになった。	警察	妻	夫
	6	身体	買い物に出かけた妻に対し、夫が浮気のために出かけたと勘違いし掴み合いの喧嘩になり、夫が警察に通報。過去に何度も同様の案件が起こっているが、あくまで妻を大人しくさせる為の手段として警察を呼んでいるだけだと、夫は介入を拒んでいた。ただし、夫の認知機能低下が見られ、今回の件についても嫉妬妄想の疑いがあることから、認知症初期集中支援チームの介入あり。	警察	夫	妻